

氏名: 学籍番号: No: 3 平成27年10月28日

① 題名: 現職教育における校内研修の授業実践に於ける意義

② 概要: 教師は常に自らの資質向上を図るべきであり、現職教育はこれを支援する役割を担っている。特に「よい教師」は、専門的スキルを身に付けることで子どもとの良好な関係を築き、そうした教師が集まって、社会・地域からの要請を受けたり、学校を開いていくことが重要である。これらの教育は校内研修のタイプが効果的だ。

③ キーワード: 現職教育 / 「よい教師」 / 「やわらかい学校」

④ メインメッセージ:

「Successful」という訳語が面白い。

「good」とか「effective」ではなく、何について成功しているか、うまくいっているか、という意味合いなのかなと思った。

大学院生としての
学びの意義は? 専門性が子どもの意欲を最も
高められるということが、結局すべての
人の期待につながると予想する。

⑤ 内容: 「やわらかい学校」・「校内研修会」・「など」について

保護者や地域、教師自身も学校を良いものとして
捉えられそう。

前期に植田校長からさいに附属中高は、
公開授業が頻繁 → 「開放性」
総合人間科 → 「柔軟性」
職員室の工夫 → 「親密性」を実現している。
← 各教師はどのように自己更新を行っているか?
「自己改善性」

研究指定校になった時に指導力を
形成する要因になった人がいる。
⇒ 多岐にわたる言われながらも、
こうした研修を行う必要はあるという
こと。急がば回れ、的な。

⑥⑤ その他: (自分の意見・疑問・質問・課題・分かったこと・思ったことなど)

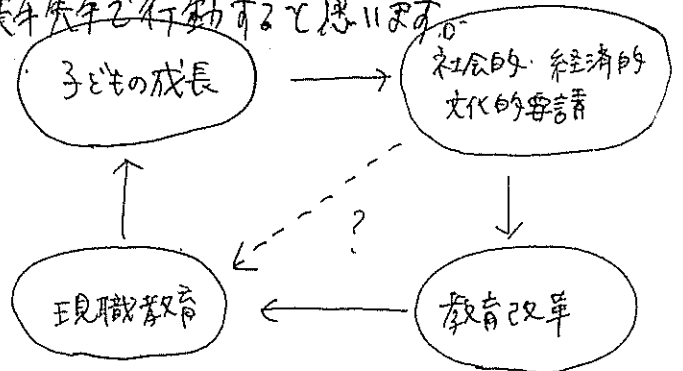
107p 図11について。

右図の破線も考えた方がいいか?

良い視点だと思います。確かに、矢野的? 教師は、
突進突進で行動すると思います。

⑦⑥ 理由: (なぜそう思ったのか)

教育改革として形になる前に、
敏感な教師は自ら授業改善など
行っている。



⑧⑧ 結論:

子どもの成長 子どもへの影響について
深く考えるなら 教師がまず成長すること。
方法はたくさんあるし、お互いに力を加えることができる。

氏名: 学籍番号: No: 3 平成27年10月21日

① 題名: 現職教育における校内研修の授業実践の対しその意義

② 概要: 現職教育は必ずあるべきが、また今後必要とする、多くの変化・適応について

③ キーワード: 現職教育、校内研修

④ メインメッセージ: 現職教育は、教師の資質そのものが経験や研修におし高まる、多くのものであるが、重要である。そして校内研修がその最も効果的な方法である。

⑤ 内容: 「校内研修」・「やわらかい学校」・「など」について
今日の社会の変容に対し、学校は「やわらかい学校」に改革を求められなければならない。そのためには学校が内から変わる必要がある。すなわち教師自身の資質の向上、校内研修が効果的であると述べた。

⑥⑤ その他: (自分の意見・疑問・質問・課題・分かったこと・思ったことなど)

校内研修が参加したい研修のタイプを1位であることに加え、閉鎖的をイメージを抱いてしまう。

⑦⑥ 理由: (なぜそう思ったのか)

開かれた学校づくりをするには教師自身も学校外部への積極性をもつ必要があると思われ、それが結果として自分たちの学校を振り回すきっかけ、変化の契機になると考えるから。

⑧⑦ 結論:

校内研修の盲目的な重要視に加え、学校も閉鎖的に、現職教育の場を狭めてしまうのではないかと。

確かに、校内研修とはものには閉鎖的なイメージを感じるなあと感じました。しかし、現状で、どこだけの研修が行われていくかわからない状況であり、

氏名：

学籍番号：

No: 3

平成27年 10月 28日

① 題名：現職教育における校内研修の授業実践に対してもつ意義

② 概要：本文は、①より広範な社会の変化と子ども・教師の成長の関係、②教師の成長と子どもへの影響力の与え方の関係、③学校のあり方と教師の成長の関係の観点から、校内研修のもつ意味を明らかにする。現代では、子どもに対する要求が変化し、子どもの学校に対する教育要求も質・量ともに変化してきている。対応するには、「開放性」「柔軟性」「非営利性」「自己改善性」を備えた「やわらかい学校」が必要だ。「やわらかい学校」は教師の変化を容易にするが、現職教育の中でも校内研修がとりわけ効果が高いことが調査から分かる。現職教育はより校内研修をサポートする形になるのが望ましいだろう。

③ キーワード：やわらかい学校、開かれた学校、専門性による力、学習共同体

④ メインメッセージ：校外研修よりも校内研修の方が効果があるというデータが興味深い。この結果から、教師が授業や学級経営に関して持っている専門性を重んじ、教師がより高い自律性をもつようにすることが、社会に柔軟に対応できるやわらかい学校を創っていくために重要だと考えられる。イギリス・フランスでの意識調査では、教師自身が教師を専門職だと認識しているが、日本の教師や行政職員はどう考えているのか疑問に思った。学校のある地域によって抱えている問題はちがうから、できるだけ小さな単位で研修をする方が素早く現実的な対応が取れる。行政は教師や学校の自律性を理解し、校内研修を促進するようにした方がいいと思った。

⑤ 内容：「教師の成長と子どもへの影響力」・「学校のあり方と教師の成長」・「など」について

教師の成長と子どもへの影響力の関係について、5つの基本的社会的な力のうち「専門性による力」が最も子どもの意欲を高めるという記述があったが、子どもの発達段階に応じてうちの力のどれかより重視されるのかや、うちの力のバランスのあり方による子どもからの評価が分かればもっと面白いだろうと思った。例えば、私が小学校低学年の頃は、先生がどれだけ知識をもっているかは関係なく、その先生が自分に罰を与えるかどうか(よく怒るかどうか)が最大の関心事だったように思う。罰や褒美の有無は専門性より優位に評価に反映される条件なのかもしれない。また、「やわらかい学校」について、「学校内部環境としての学年・組(…)境界が取り除かれていること」はどのように実現されるのか疑問に思った。ここから「中一ギャップ」を予想したのだが、小学6年の時にはなかった学年による上下関係が中学生になって急に生まれるのは、小学校と中学校で内部環境がちがうためであり、思春期の心の問題も考慮する必要があるが、学年の境界を取り除くヒントが小学校と中学校の差にあるかもしれないと思った。

⑥⑤ その他：(自分の意見・疑問・質問・課題・分かったこと・思ったことなど)

社会の変化により、「子どもたちの学校に対する教育要求は以前とは質的にも異なり、量的にも拡大しつつある」とあるが、具体的に想像するのが難しかった。

⑦⑥ 理由：(なぜそう思ったのか)

例えば、コミュニケーション能力の向上、情報化社会への対応、地域の担い手の育成という問題は社会の変化に伴って学校に要求されるようになったものだが、これらは親や大人の事情だと思つたため。

⑧④ 結論：校外研修よりも校内研修の方が効果があるという調査結果が、学校が内部から変わる可能性を示していて面白いと思った。学校・教師が自律性をもつことの大切さが分かったし、それには学校と教育行政との関係も重要だ。海外では教師や学校が日本より大きな権限をもっているところもあるが、そういう国では、教師の成長はどんな風か知りたかった。

氏名: 学籍番号: 3 平成27年10月28日

① 題名: 現職教育における校内研修の授業実践に対する意義

② 概要: 多くの教師が校内研修を他のタイプ^の現職教育と比べて効果的な現職教育のタイプだと考えているが実際にその効果を検証したものは少ない。現職教育と授業展開、教育実践の相互関係を明らかにする必要があり。

③ キーワード: 現職教育、校内研修

④ メインメッセージ:

現職教育において、教師の資質の向上だけでなく、その先に子どもへの影響、学校への影響があることは想像できるが、目に見える形で明らかに(成長) (変化) 他に説得力は乏しいので
先に研究を多く読みたいと思った。

⑤ 内容: 「校内研修が最も効果的だと考える理由(100)」・「など」についてより具体的、状況に応じた援助になりえるよう、教師の意欲も高く、効果も目に見える。個人の資質の向上のみならず、教師同士の関係、学校、雰囲気、環境にまで良い影響と与えることができるとしている。

⑥⑤ その他: (自分の意見・疑問・質問・課題・分かったこと・思ったことなど)
実践から学ぶ(Learning by doing) は大きなキーワードだと考える。

⑦⑥ 理由: (なぜそう思ったのか)

研修でありながら同時に実践であることにより、より大きな効果が表れると考える。学校を基礎とした現職教育の1つの良さであると考え。

⑧④ 結論:

現職教育は、教師の自主的な研修にこそ自己変革・自己革新をサポートする
これが主な役割として期待されており、中でも校内研修は効果的である。

現職教育の一つとしての校内研修の影響について考えたいのであり、

「実践から学ぶ」がキーワードであることには気付いた。

校内研修の内容について具体的に話し、これを読んでみたいと感じた。

氏名: 学籍番号: No: 平成27年10月28日

① 題名: 現職教育における校内研修の授業実践に対しても意義

② 概要:

現職教育の役割の1つに、教師が専門家としての態度を持つことへの援助がある。
このような教師によって構成される学校は、「ヤマトカい学校」であり、その実現には、
実践から学びをこそ重視した、校内研修が基本である。

③ キーワード: successful teacher, 現職教育

④ メインメッセージ:

専門家教師とは、よい教師は、成長した教師は、権力と影響力を
専門性による権力に基づいて子どもに対して行使する。

⑤ 内容: 「ヤマトカい学校」・「 」・「など」について

ヤマトカい学校の特徴は、開放性、柔軟性、親密性、自己改善性であり、
かた一方の学校よりも、ヤマトカい学校のほうが変化を生じやすい。逆に教師が
変遷することにより、学校がヤマトカい学校になることも可能である。

⑥⑤ その他: (自分の意見・疑問・質問・課題・分かったこと・思ったことなど)

よい教師になるためには、強制的な権力や報酬による権力ではなく
希求による権力とは、専門家としての権力を行使したほうがよい。
しかし現実には、強制的・報酬による権力を行使する方が多い。

⑦⑥ 理由: (なぜそう思ったのか)

確かに、そのまゝ実行に移すという行動になる
頭では分かっているも、実行に移すのが難しいのは確か。
教師の態度や子どもの親類関係が
関係しているように思う。

⑧④ 結論:

専門家としての権力を行使するためには、ヤマトカい学校である必要がある。
それは、必要十分条件である。双方を実現するためには、校内研修が基本である。

氏名: 学籍番号: No: 平成27年 10月 28日

① 題名: 現職教育における校内研修の授業実践¹に対する意識

② 概要: 現職教育と教師の成長について、現職教育を通して教師は、知識・態度などを自己変革していく、¹これは子どもに影響を与えただけでなく、長期的な視点で見れば社会に影響を与える。教師が学びと対話を様々な力が作用しており、中でも教師の「専門性による橋渡し」を行おうとすることが最も有効であるとされており、これを達成する現職教育が求められた。そのためには「業教性」も「やわらかい学校」として学校自体が変革していく必要がある。最後に著者は現職教育の中でも、教師個々のニーズを満たすことができ、教師同士の連携が強化される校内研修の重要性を主張している。

③ キーワード: 現職教育, 校内研修, 専門性による橋渡し, やわらかい学校

④ メインメッセージ: 教える現職教育の中から、校内研修を最も効果的であるとし、その理由を列挙しているが、「教師個々のニーズに添えるだけでなく、教師同士が連携できること」に注目している。「やわらかい学校」づくりには教師全体の意識改革が必要であり、相互に影響を与え、連携を強化できた校内研修は不可欠なだろう。また、校内研修は教師が「プラグマティックな学び」を展開していると言えるので面白い。

⑤ 内容: 「1. 現職教育の役割」・「教師の自己革新と変革」・「など」について

「まず、教師の役割は生まれながらに備わっているわけでもないし、教師になったその時点で、期待されている教師の姿の枠の中で活動するのはまあであらう。」

これはアノニ先生が度々「教育実習評価シート」を見せた際に言う台詞がある。

その後登場する「やわらかい学校」を説き、教師に求められることは学校にも求めらるべきと想った。

⑥⑤ その他: (自分の意見・疑問・質問・課題・分かったこと・思ったことなど)

? 「やわらかい学校」と「学習する学校」は何が違うのか?

⑦⑥ 理由: (なぜそう思ったのか)
共通点が多かったわ

やわらかい学校と学習する学校は似ていると感じました。違うところがあるとしたら、学習する学校には「ゴール」がある。ゴールに向かって何人か教師が「必要なもの、やるべき事を行う」という印象で、やわらかい学校は柔軟に変化していく事が感じました。

⑧④ 結論: 専門性の

教師の成長、学校の変革のため現職教育は不可欠であり、その中で最も効果的とされるのが校内研修である。

教師の経験年数によらず、
子どもの見方、困っていることがちがってこると、
研修も異なったものに必要だと思う。
一方、校内研修は混ざること学び合えること、
(子どもの学習と同じ)

氏名: _____ 学籍番号: _____ No: 3 平成27年10月25日

① 題名: 現職教育における校内研修の授業実践に対する意義

② 概要: 本論文の目的は、① 社会の変化と子どもの成長不安と教師の成長の関係、② 教師の成長と子どもの影響との関係、③ 学校のあり方と教師の成長の関係のそれぞれの件数を明らかにし、「現職教育」の中で最も重要な要素である校内研修が授業実践に対する意義を明らかにすることである。

③ キーワード: 良教師

④ メインメッセージ:

① 「良教師」とは、子どもの成長を援助するよい環境を提供するよい教師、つまり、学習の場を提供するよい教師のことである。現代において教師は単に教えることばかりで、「場」を提供する役割を担っていないか。

⑤ 内容: 「現職教育の重要性」・「^{1つ}」・「など」について

● 「外部講師による校内研修」を希望する教師は、経験年数が長くなるほど高くなる傾向がある。これは、何を意味するのだろうか。
すなわち、経験年数が20年以上の教師は、自校講師による校内研修を希望する割合が高い。

⇒ つまり、経験年数に応じて「異なる」研修が必要なのではないか。

⑥⑤ その他: (自分の意見・疑問・質問・課題・分かったこと・思ったことなど)

企業内教育においては、OJT, OTT, 自己啓発といったものもあるが、教師教育の世界では、どの様な教育体系をとっているのだろうか。

⑦⑥ 理由: (なぜそう思ったのか)

「企業内教育」という視点から、教師教育を捉えることは難しい。
(ただし、学校文化に企業的根拠はないかと思うが)

⑧⑦ 結論: 教師人としての OJT, OTT, 自己啓発は何か?

また優秀な教師を育てるための教育プログラムは各学校にあり、
それは、